



発行日 平成23年10月3日

工学部新聞NO.7

※本紙のカラー版は工学部HPで公開中です。 <http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/shinbun/>

~目次~

1ページ

・計9回の「チーム米沢」震災ボランティアを行いました

2ページ

- ・チャレンジし続ける山工工学部
一新・工学部長からのメッセージ
- ・科学フェスティバルが行われました！
- ・オープンキャンパスが開催されました！

3ページ

- ・吾妻祭実行委員長にインタビュー
- ・キャンパス内に新しい研究施設が誕生！
- ・「工学部国際連携サマースログラム
in Malaysia」が行われました
- ・学生と先生との交流会「クロスポイント」

4ページ

- ・工学部の就職状況について
- ・今後のお知らせ
- ・編集後記

特別読み込みページ

- ・今、輝いている学生たち！！
- ・クラフトバル&フォーミュラ部大活躍！！
- ・平成23年度学位記授与式(9月30日付け)が行われました
- ・学会等での表彰一覧 (H23.3現在の情報)
- ・「轉轡市」を行いました

計9回の「チーム米沢」
震災ボランティアを行いました

5月21日から7月23日までの毎週土曜日に9回にわたり、工学部による震災ボランティア企画が行われました。毎回およそ30名の学生や教職員が参加するなかで、最多の8回にわたり参加した学生が、加賀ひとみさんです。参加の動機や気持ちの変化について伺いました。

震災当時、仙台の実家や友だちの家を心配していた加賀さん。自分で仙台に行くことが出来なかったところ、大学でボランティアのポスターを見て、すぐに申し込んだそうです。行く前の想像とは違い、海から遠い場所での作業で、比較的片付いている印象を受けました。周りの参加学生を見て、しっかりしている先輩が多くて驚きました。反面、始め自分は何もやる事ができないと感じたといいます。

参加回数を重ねて作業に慣れてきたころ、学生リーダーを任せられました。話が挙げたときにはできると思いましたが、実際には、言葉を選んで会話することが難しかったそうです。また、初めての参加者に対する配慮を大切にすることを心掛けました。

参加してみて、「自分ができるとは限られているが、少しでも役に立てた。参加している人に志が高くて、学ぶことが多かった」、また、「一人でも多く、参加できる人みんなに来て欲しい」とこれからも継続されるボランティアに対して、参加を呼びかけていました。

物質化学工学科 3年生
加賀ひとみさん

チャレンジし続ける山大学工学部 一新・工学部長からのメッセージ

大場好弘前工学部長の任期満了に伴い、新たに工学部長に選考された飯塚博教授（機械システム工学分野）にお話を伺いました。任期は平成23年9月1日～平成25年8月31日まで。同時に選考された副学部長は、高橋辰宏教授（再任）、井上健司教授、神戸士郎教授の3名です。

1. 抱負は？

研究センターの開所に伴って注目を集めている有機エレクトロニクス分野を積極的に支援して、世界一の研究拠点にすることで。また、工学部ではまだまだ光が当てられていない社会に役立つ他の研究がたくさんあり、それらの研究と企業とを結び機会を多くするために、コーディネーターを設置するなど組織的に支援します。教員の研究意欲だけでなく学生のキャリア形成を応援していきたいです。

2. 学生への取り組みは？

世界に求められる人材を育成するために、従来の講義形式ではないGroup Discussionなどを取り入れたProject Based Learning（課題解決型学習）を推進したいと思います。システム創成工学科で試験的に行ってきた授業を、他の学科にも広げたいです。

3. 海外留学の制度は？

工学部では今年から学部生を対象として、国際的な感覚を養い、視野を広げることを目的として海外留学の補助制度を始めました。特に、採用には目的や意識の高さを重視しています。すでに今回の応募期間は終わっており、今年は2名が選考されました。ともに目的意識をもった学部生で、ぜひ多くのことを吸収してほしいと思います。

受け入れ先は、工学部教員が交流している海外の大学など、ある程度条件は決まっていますが、その他の海外留学支援制度とは異なり、工学部独自の取り組みです。興味がある方は、今後も掲示板に注目してほしいと思います。



山形大学工学部長
飯塚 博 先生（機械システム工学分野）

3名の副学部長



高橋辰宏先生（機能高分子工学） 井上健司先生（応用生命システム工学） 神戸士郎先生（物質化学工学）

科学フェスティバルが行われました！



7月30日、31日に第4回目となる科学フェスティバルが行われました。今年も多数のブースが準備され、2187名もの人が工学部に集まりました。今年も大学生と子供たちが一緒になって科学の世界を体感し、体験したブースをチェックするカードを首からさげてまわる子供たちがたくさん見受けられました。自分で作成したものが動いたり、食べられるということでものづくりの楽しさをたくさん味わうことができましたようです。大学生にとっても子供たちにとっても良い夏の思い出になったようです。

オープンキャンパスが開催されました！

8月5日（金）、工学部でオープンキャンパスが開催され、最先端の研究が紹介されました。日中は30度を超える真夏日であったにもかかわらず、多数の高校生が研究室を見学しました。研究室を訪れた高校生に学生や先生が説明する光景がこちらこちらで見られました。高校3年生の女子生徒は、「今日見学した研究はどれも面白く、また楽しそうな大学生と接することができ良かった。来年は自分も先輩の様な大学生になれるよう、勉強を頑張りたい」と言っていました。来学した高校生は、山形大学で何が学べ、どんな成長が出来るのか、自分の将来の目標をさらに具体的に出来るような体験したのではないのでしょうか。

当日は研究室公開の他に、各学科の学科紹介や模擬授業、同時開催のイベントとして「有機エレクトロニクス研究センター見学会」や「次世代ロボットの未来の講演会」、「震災ボランティア活動報告」が行われ、一般の大学生も参加されたようです。



吾妻祭実行委員長にインタビュー

今年は吾妻祭が10月8・9・10日に行われます。初日は米短影山ヒロノブさんのライブを行うほか、2日目、3日目は山大工学部で多くのイベントが行われます。そこで、実行委員長の駒米光太郎さんにインタビューをしてきました。

今年のテーマは「ピース peace×piece」ということで、吾妻祭は一人一人が主役として作り上げていくものであるということ、また被災地の方々へのメッセージを込めてこのテーマにしたそうです。「吾妻祭を地域の方々にもっと知ってもらいたい、より多くの世代の方々にも知ってもらいたい」と意気込む駒米さん。今年は新しく吾妻祭のテーマソングを募集したり、当日は地域の園児に描いてもらった絵を体育館に展示したり、屋台の中でNo.1を決めたり、チャリティーでフリーマーケットをするそうです。

また、今年の見所を訊いてみたところ、お化け屋敷だということでした。お化け屋敷は2日間やるそうで、例年に比べ更に怖さを感じてもらえるように事前に整理券を配布する際に作成したイメージPVを観てもらったりというような工夫をしているそうですので是非観にいったはどうでしょうか。



機械システム工学科 3年生
駒米 光太郎 さん

○第17回吾妻祭

日時：10月8日（土）～10日（月）
場所：8日 米沢女子短期大学
9～10日 山形大学工学部

キャンパス内に新しい研究施設が誕生!!

この4月、工学部に新しい建物がオープンしました。

工学部創立100周年を機に建てられた5階建て約5700平方メートルのこの有機エレクトロニクス研究センターは有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタの主要3部門からなっていて、ノーベル賞級の研究教授である城戸先生や時任先生方を中心に、新進気鋭の研究者からなる"世界一の先端研究拠点"の形成を目指しています。館内の入り口には有機ELのパネルを使った装飾がなされており多くの有機エレクトロニクスの研究に触れることができます。（9月30日には開所記念式典が行われました）



有機エレクトロニクス研究センター

- 5 F 有機EL
- 4 F 有機EL・共通
- 3 F 有機トランジスタ
- 2 F 有機太陽電池
- 1 F 共通機器・クリーンルーム

世界でも例を見ない
有機エレクトロニクス専門の大学内研究施設

「工学部国際連携サマープログラム in Malaysia」が行われました

9月12日から20日までの9日間でサマープログラムが行われました。国際的な経験に乏しい学生が異なる言語・文化・教育環境に触れることで国際的な感覚を養い、視野を広げることを目的とするサマープログラム。参加学生は、出発前の勉強会やSkypeでの事前交流を活かし、マレーシア・マラ工科大学での親睦会や授業に参加したり、ホームステイしたりとそれぞれが充実した9日間を過ごしたようです。



学生と先生との交流会「クロスポイント」

学生と先生とを結びつける学生企画をしている「クロスポイント」を紹介し、代表の三浦さんによると、活動内容は学部2、3年生を対象に、授業以外の場面で先生と交流し、将来のことを相談したり、先生の研究内容について教えていただける交流会をすることだそうです。2ヶ月に1回のペースで開催し、密度の濃い交流ができる所が魅力とのこと。

百周年記念会館の迎賓室で開催された第1回、2回では、先生と学生の双方から好評をいただき、先生からは「普段交流のない人と会話が出来、有意義な時間を過ごすことができた。」との感想をいただけたそうです。次回は10月末の予定。皆さんも一度参加してみたいかがでしょうか。



工学部の就職状況について

こんな取り組みも行っています！

今年度の就職状況は、昨年度に比べてやや良くないそうです。具体的な就職状況は下記表のとおりです（H23. 8. 31現在）。

現在は状況改善のため、セミナーを開催したり個別面談に応じたりと、学科ごとに対策をしているそうです。

昨年度の就職率は学部・大学院を含め約97%でした。

	Aコース	Bコース	博士前期
卒業・修了予定者数	642	92	367
内 訳	就職希望者数	306	348
	自営希望者数	0	2
	進学希望者数	318	11
	その他	18	6
	就職内定者数	179	244
	未就職者数	127	106
	就職率	58.5	69.7

1. キャリアカウンセラーによる就職相談

学外のカウンセラーによるキャリアカウンセリングを実施しています。自己分析、面接練習、応募書類の添削、就職活動に関する悩みなど何でもご相談ください。

実施日：毎週月曜日と木曜日

13:00~17:00（一人あたり50分）

場所：キャリアサービスセンター（5号館2階）

備考：要予約

問合せ：キャリアサービスセンター TEL 0238-26-3022

2. 「中小企業体感ツアー」成果報告会

今年も9月20日~22日に「山形県内の企業を巡るバスツアー」を行いました。本ツアーは、山形県内のものづくり企業を訪問し、実際に働く現場に足を踏み入れ、経営者らとの意見交換を通して、企業や経営者本来の姿の理解を深めるものです。

今年本ツアーに参加した学生の報告会を下記日程にて行いますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。

【中小企業体感ツアー成果報告会】

日時：10月8日（土）13:15~14:15 場所：4号館大示範教室

テーマ：「山形県内の中小企業を巡り

学生は何を感じ取ったのか…」

今後のお知らせ

【吾妻祭同時開催イベント】

○第5回ホームカミングデー

年に1度卒業生を招き、旧交を暖めていただくホームカミングデーを開催しています。

日時：10月8日（土）12:00~14:15

場所：4号館大示範教室

○第11回山形大学工学部クラシックコンサート

日時：10月8日（土）13:00~14:20

場所：工学部百周年記念会館

演奏者：ギタリスト 小関 佳宏
ヴァイオリニスト 佐藤 実治

○北海道・東北地区保護者懇談会

日時：10月8日（土）14:45~16:45

場所：4号館大示範教室

○第3回米沢バイオ公開セミナー

我々の体の主な臓器の働きや病気について勉強できるセミナーです。セミナー終了後は、cafe吾妻にて懇親会も行われます。

日時：10月9日（日）13:30~17:15

場所：工学部百周年記念会館

参加費：無料

○成績優秀な学生に対する留学支援

TOEIC（またはTOEIC IP）の成績優秀な学生に対して、語学研修と共同研究等への参加を含む留学を支援しています。

対象：全学部の学部生または大学院生

支援額：往復の旅費（滞在費は含まない）

主な必要要件：TOEIC（またはTOEIC IP）のスコア表、等募集期間：平成23年12月2日まで

問合せ：学生支援担当 TEL 0238-26-3017

編集後記

震災の影響で半年間発行が遅れてしまいましたが、やっと今年初めて発行する事ができました。今回は、震災の影響にも負けず活発に活動する多くの学生を紹介でき本当に嬉しく思います。これからの半年間も活発に活動する学生をたくさん紹介していきたいです。

編集員を募集しています。掲載情報もお寄せ下さい！

一緒に新聞を作ってくださいの編集員を募集しています☆

また、サークル活動の成績や各種の受賞・表彰など、工学部新聞に掲載する情報もどしどしお寄せ下さい！連絡お待ちしております!!!

Tel 0238-26-3419 E-mail koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



今輝 いている学生達!!

本学部には、数々の学会やサークルの大会等で優秀な成績を修めている学生が大勢います！その一部を、ここにご紹介します。



クラフトパル & フォーミュラ部 大活躍!!

「人力飛行機研究会Craft-Pal」が5年ぶりに鳥人間コンテストに出場しました

本学の学生サークル「山形大学工学部人力飛行機研究会Craft-Pal（クラフトパル）」が、7月30日（土）・31日（日）に滋賀県琵琶湖で開催された「第34回鳥人間コンテスト選手権大会」に出場しました。本サークルの出場は5年ぶり、5回目となります。

今年は新発想・新設計の機体で大会に挑みました。書類選考を通過し、大会出場を決めた機体は、長年の大会でも出場記録の無い無尾翼プロペラ機“アルソミトラ”です。縦方向の安定性を保つことが難しいですが、軽いというメリットを持つのが特徴です。

Craft-Palは7月31日（日）、飛行距離を競う人カプロペラ機ディスタンス部門に出場。部員一丸となり機体調整作業を進めた“アルソミトラ”は、大会当日30.46mを飛び、同部門で10位でした。



「学生フォーミュラ部」が第9回全日本学生フォーミュラ大会に出場しました

9月5日（月）～9日（金）に静岡県のエコパスタジアムで「全日本学生フォーミュラ大会」が開催され、工学部のフォーミュラ部が出場しました。チームの大会成績は、「動的競技」「静的競技」の各種目でポイントを稼ぎ総合で75チーム中59位。部長の高橋雄大さん（機械システム工学科4年生）に伺ったところ、「今年のマシンは去年のフレームをそのまま使用し、テスト走行を繰り返しながら足回りの誤差の修正や燃料システムのトラブルなどを克服した。現場で次々に出てくる問題の原因を究明し解決して機体全体の性能の向上を図った。全員8名の協力で、なんとか大会に出場までに間に合わせた。」とのことでした。

取材通して、実際に機体に乗せてもらい、興奮しました。また、一からすべて学生が構想・設計・製作していることに驚きました。ものづくりの現場を体験出来ることが、フォーミュラ部の特徴ではないでしょうか。現在、来年以降の大会に出場する部員集めに力を入れているそうです。興味を持った方は、フォーミュラ部の部室に訪ねてみてはいかがでしょうか。



平成23年度 学位記授与式(9月30日付け)が行われました

9月26日（月）、山形大学工学部・大学院理工学研究科の学位記授与式（9月30日付け）が行われました。今回学位記を授与された学生は下記のとおりです。

工学部学位記授与 7名

理工学研究科学位記授与 博士前期課程 10名、博士後期課程 3名

当日、授与式に出席した学生は、飯塚工学部長より1人ひとりに授与された学位記を誇らしげに手にしていました。式終了後は懇談会が行われ、学生は共に学んだ仲間やお世話になった先生方と談笑していました。



学会等での表彰一覧 (H23.3現在の情報)

「日本MRS学術シンポジウム “奨励賞”！」

ちば さとし
千葉 聡 さん

平成23年1月4日受賞

機能高分子工学専攻 (藤森研究室)

題目：芳香族ポリアミド組織分子膜の分子配列とその機能

「電気関係学会東北支部連合大会奨励賞」！

やまぐち よしみ
山口 好 さん

平成22年12月3日受賞

情報科学科 (古閑研究室)

題目：Smoothing Filter Based On Snow Fall Model

「電気関係学会東北支部連合大会奨励賞」！

ろ しんえ
芦 新 さん

平成22年12月3日受賞

ものづくり技術経営学専攻 (古閑研究室)

題目：Still Vehicle Detection
Using Adaboost Algorithm

「日本音響学会若手研究者優秀論文賞賞」！

かんだ たかゆき
神田 敬幸 さん

平成23年2月10日受賞

電気電子工学専攻 (近藤研究室)

題目：空気伝導と骨伝導ヘッドホンを
用いた空間定位音声了解度の比較

「マテリアルライフ学会 春季研究発表会」！

やまだ よしえ
山田 佳枝 さん

平成23年3月3日受賞

機能高分子工学科 (栗山研究室)

題目：異なる暴露試験後のBPP射出成形品の構造解析

「商品開発・管理学会優秀発表賞」！

ほんま よう
本間 洋 さん

平成22年12月3日受賞

バイオ工学専攻 (高橋研究室)

発表内容：かくはん試験装置の開発の経緯、改善点

「特許、出願中」！

発明人

田中賢先生、北上恵理香さん、八木理美さん、青木麻紀子さん、黒木千聖さん、佐藤千香子さん、小椋景子さん

バイオ工学分野 (田中研究室)

特許名称：溶液から細胞を分離する細胞分離方法、および、細胞分取用水和性組成物

※下線は研究室の学生です

「棒杭市」を行いました

9月24日に上杉祭りとともに伝国の杜広場で棒杭市が行われました。「棒杭市」とは上杉鷹山公の時代から伝わる、棒と杭だけで作った無人販売所のことです。当時は日用品や野菜、旅の必需品などが売られていました。そこで学生委員長の菅野青伊さんに話を聞いてきました。今年から山大や米短、米沢商業高校の学生が中心になり企画することになった棒杭市は、無人販売にもかかわらず、嘘をつかずちゃんとお金を払い売買されていたという、その心意気と誠実な心を再現したいという思いや、スタッフ全員が一番に楽しんでいるイベントにしたいという思いのもと活動してきたそうです。できる限り上杉鷹山公の時代に行われていた棒と杭だけの様子を再現したいという考えから、看板もすべて手作り、お店のレイアウトにもとことんこだわっているということでした。また、宣伝活動にもかなり力を入れているようで、ラジオやテレビ、新聞やインターネットを使った宣伝、ブログを作るなどの活動も行ったそうです。最後に「このイベントを通し各々が自分の目的に向かって全力を尽くし、時には失敗し、悩み、考え、みんなで団結し、作り上げた棒杭市にこそ成功があると私は考えています。」ということをおっしゃっていました。

